

令和6年度

公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団

事業計画

1 事業計画の概要

財団の基本計画（令和元～10年度）は、令和5年度に、後期の計画期間に向けて、国、東京都及び調布市の動向を踏まえ、組織の基本理念や各施設のミッション・ビジョンを整理し、これに伴う事業内容の見直しを行いました。この見直しでは、文化芸術の多様な価値を推進するため、調布市との連携をはじめ、地域の多様な主体との連携を基本に、たづくり、グリーンホール、せんがわ劇場の3施設の特性に応じて一体的に活用しながら、各事業に取り組んでいく方針を明確化しました。

このことを踏まえ、計画期間後期の初年度である令和6年度は、以下の視点で事業に取り組みます。

第1に、事業運営では、調布市国際交流協会における組織体制の見直しにより、財団事業の中に新たに国際交流事業を位置づけ、同事業に関する人材やノウハウを最大限に生かし、文化芸術の振興、生涯学習、地域コミュニティ活性化など財団の既存事業との有機的連携を図ります。また、せんがわ劇場では、第2期の指定管理事業計画を策定し、芸術監督による芸術性・創造性の高い公演制作を起点に、舞台芸術の活性化を図りながら、学校や福祉施設などのニーズに応じて幅広く演劇・音楽のアウトリーチ活動を行い、地域との交流を深めます。

美術振興事業や地域コミュニティ活性化事業の主要な事業は、調布市が実施する「調布市パラアート展」と連携し、共生社会の重要性を発信する取組「パラハートちょうふ meets ART」の一環として実施することで、市と財団事業の相乗効果を高めます。

第2に、施設管理運営では、アンケートや窓口など多様な手段を通じて利用者の声に耳を傾け、可能な限り反映させることで、誰もがアクセスでき、利用しやすい施設運営を行います。災害時における対応に関しては、市との連携の下、実践的な訓練を実施します。

第3に、組織運営では、文化芸術に関する専門的な知識を深めながら、市との連携、市民や地域、関連分野との連携を推進できる総合的なスキルを備えたアートマネジメント人材の育成に引き続き取り組みます。

財務会計では、物価高騰等の影響により、ランニングコストの増加が想定されます。こうした状況を踏まえ、引き続き、経費の縮減とともに、外部助成金の獲得など自主財源の拡充に取り組みます。

2 事業内容

基本計画に基づき、組織の基本理念と各施設のミッション・ビジョンの実現に向けて、共生社会の充実、地域の多様な人材・団体との連携と協働、次世代の芸術家・鑑賞者の育成などに留意しながら、各事業を展開します。

一方で、市の財政状況や指定管理者制度の趣旨を踏まえ、事務事業の合理化や自主財源の拡充により、効果的で効率的な組織運営を実施します。

文化会館たづくり



多様な人材・団体による持続的な連携と協働

文化プラットフォームの形成と発展を通じて、文化芸術や国際交流のみならず、観光、まちづくり、福祉、教育、産業など関連分野における多様な人材・団体と持続的に連携・協働することで、ユニークで活力ある調布のまちをつくります。



まちの価値を高める文化施設

調布のまちには、古利・深大寺、約40社もの映画・映像関連企業、水木マンガなど豊富な文化資源があります。これら文化資源を活用し、地域の多様な人材・団体との連携・協働の下、デジタル時代に対応した事業を展開することで、まちの価値を高める文化施設を目指します。

映像文化・メディア芸術事業

共催・独自事業／指定管理事業

主要な取組

●調布メディアアトラボ

映像文化・メディア芸術の多様な魅力を発信するため、1階展示室での展示事業「P o n b o k s 展（仮称）」と連動し、関連ワークショップやトークイベントなどを実施します。展示による作品の鑑賞や体験に加えて、作品制作の技術面等への興味が深まる事業の実施を通じて、より多くの市民に向けて、メディアアートに親しむ機会を提供します。

事業概要

7回目となる「映画のまち調布シネマフェスティバル」は、映画の作り手にスポットライトを当てるフェスティバルとして、一層の充実を図ります。映画関連企業や団体との連携・協力を深めながら、市民投票により選出されたノミネート作品の中から技術賞を授与する「映画のまち調布賞」の受賞作上映を軸として、トークショー、ワークショップ、展示などを実施します。

調布シネサロンは、「映画のまち調布」で映画の魅力を気軽に楽しめる大スクリーンの上

映会を通年で実施します。無声映画を活動弁士・生演奏付きで上映するほか、調布国際音楽祭や市民カレッジなど他の財団事業と関連した作品を上映し、相乗効果を高めます。

また、文化庁との共催により、国立映画アーカイブ所蔵の映画フィルムを上映する優秀映画鑑賞推進事業を活用し、後世に残すべき名画を上映します。同時に、誰もが映画鑑賞を楽しめるよう、上映事業全体を通して日本語字幕付き上映や保育サービスなどを実施します。

ゲゲゲギャラリーでは、名誉市民である水木しげる氏の功績を称えるとともに、市民やファンに「調布の水木さん」の魅力を広く伝えるコーナーとして展開します。



映画のまち調布シネマフェスティバル



映画のまち調布賞 授賞式



ゲゲゲギャラリー

ミッション
1

文化芸術の裾野拡大と普及

文化会館たづくりは、40以上の貸出施設で構成され、様々な文化芸術活動ができる複合施設です。この文化会館たづくりを中心に、誰もが学習や鑑賞の機会に触れ、親しむことができるよう、幅広く普及啓発事業に取り組みます。

ビジョン
1

誰もが自主的に活動できる文化施設

文化会館たづくりは、文化芸術の公演・展示に限らず、生活文化や国民娯楽など幅広い文化芸術活動ができる施設を有しています。これら施設の機能を最大限に生かした美術展示や学習講座等の事業を行うと共に、誰もがいきいきと自主的に文化芸術活動ができる文化施設を目指します。

美術振興事業

指定管理事業

主要な取組

● P o n b o k s (ポンボックス) 展 (仮称)

子どもから大人まで、遊びながらメディアアートに親しむことができるよう、体験型展示アーティストである P o n b o k s による展示を実施します。「体験」と「交感」の芸術普及プログラム「T A C (T a z u k u r i A r t C o m m u n i c a t i o n の略)」では、調布メディアアートラボと連携して実施し、作品制作の技術面等についても紹介することで、メディアアートに対する理解を促進します。

●クリエイティブリユースでアート！展（仮称）

地域の産業に触れながら、廃材・端材で創作活動を行う「クリエイティブリユースでアート！」では、ウクライナのアーティストとともに、市内の事業所等から出た廃材で作ったピンホールカメラの作品を展示します。また、本事業の取組の一環である「フィルム缶にアート！」では、学校や福祉作業所など市内各所に体験キットを貸出し、誰もが気軽に芸術に親しみ、創造できる環境づくりを推進します。

事業概要

展示室では、調布市ゆかりの作家や新進作家による展示、親子で楽しめる企画展示を実施し、芸術の多様な楽しみ方を提供します。

また、障害の有無に関わらず展示を楽しむことができるよう、鑑賞サポートや展示室外からも参加できるプログラムを展開します。

生涯学習事業

指定管理事業

ちょうふ市民カレッジでは、他事業と連携した講座や地域の特色を活かした講座を企画し受講生の学びを深めます。連続講座においては、受講生が気軽に参加しやすいように実施回数の見直しをするほか、若年層の獲得に向けた受講料割引制度の検討を進めます。

美術展関連文化講演会は、都内または近郊の美術館で開催される展覧会の主催団体と連携し、市民の学習ニーズに応える事業を実施します。



クリエイティブ・リユースでアート！ TAC



市民カレッジ

ミッション
3

多様性と活気のある地域コミュニティの形成

人々のふれあい・交流の場をつくり、多様な文化や価値観を認め合い、共に生きる絆を深めることで、持続可能で活気あふれる地域コミュニティを形成します。

ビジョン
3

地域共生社会の基盤となる文化施設

国籍、年齢、障害の有無等にかかわらず、あらゆる人々が地域社会に参加できる機会をつくり、多文化・多世代の交流を促進することで、地域共生社会の基盤となる文化施設を目指します。

文化祭事業

共催・独自事業

市民の文化芸術の普及と交流を図り、文化プラットフォームの形成を促進するため、市、市教育委員会及び調布市文化協会とともに、「第69回調布市民文化祭」を実施します。

地域コミュニティ活性化事業

共催・独自事業

ふれあい・交流の場の創造のため、夏を華やかに彩る「調布よさこい2024」を開催するほか、市民が自主的に取り組む地域コミュニティ活動への支援を行います。

共生社会の充実に向けた取組として、令和4年度から協力開催している市主催のパラアート展との連携を生かし、誰もが参加できる創造・活動の場をつくります。また、これまで築いてきた地縁団体組織、地域の商店街、福祉・障害者団体、教育機関など、多彩な人材・団体との連携と協働を深めながら、人と人とのつながりやコミュニティ機能の向上に資する地域コミュニティの活性化に取り組みます。

活動支援事業

共催・独自事業／指定管理事業

市民の自主的な地域・文化活動などが、円滑に充実して実施できるよう、テント、椅子、机、音響機器などイベント用品の貸出しを行います。そのほか、後援名義の使用承認により、市民活動を支援します。文化会館たづくりでは、団体用に保管ロッカー、印刷機器の貸出し、陶芸焼成設備を活用した作品焼成支援を実施します。市民や団体とのコミュニケーションを通じて、市民活動の実情やニーズを共有し、連携して解決に取り組みます。

市民との連携事業（※3 施設共通）

共催・独自事業

文化ボランティア「ちょうふアートサポーターズ（CAS）」の活動を推進し、市民が文化芸術の担い手として主体的に活動し、誰もが活躍できる社会づくりに取り組みます。

「調布市パラアート展」との連携をはじめ、福祉・障害者団体や民間企業など地域の多様な主体と連携し、誰もが参加できる創造・活動の場づくりや、市民による文化芸術活動を支援します。



調布市民文化祭



調布よさこい

主要な取組

●やさしい日本語の普及啓発

日本に在住する外国人に情報を伝える際は、多言語で翻訳・通訳するほか、やさしい日本語を活用することが有効とされています。このため、「やさしい日本語研修」を国際交流センター会員や職員向けに行った上で、財団ホームページや財団報ばれっと等で積極的に活用し、広く外国人の社会参加を促進します。

●卒業クラス創設の検討（日本語学習の支援）

これまでの調布市国際交流協会における日本語学習支援の効果により、日常生活には不自由をきたさない能力を備えた外国人会員が、日本語で会話する機会を求めて、日本語教室に通ってきています。今後学習希望者が増えた場合、学習支援ボランティアが不足する事態も予測されます。真に日本語の学習が必要な外国人に支援を届けるため、中級者以上の新たな学習の場として、（仮称）卒業クラスの創設を事業化に向けて検討します。

事業概要

日本語学習の支援では、外国人が日本で円滑に生活していくことができるよう、日本語でのコミュニケーション能力を高めるため、日常生活に必要な日本語の学習機会の場を提供するなど、児童・生徒から大人まで様々な支援を行います。交流事業では、多くの国や地域の人々と相互に理解し合い、信頼を深めることができるよう、年間を通した連続プログラムから単発で開催するものまで、多様な交流事業を実施します。

外国人の生活支援では、自治体からの通知等が読めないなど、生活支援が必要な外国人に対して、ボランティア会員による翻訳サービスを提供します。また、行政手続の窓口や学校の三者面談の場に、通訳ボランティアの派遣を行うなど、日本語が不自由な外国人への支援に取り組みます。また、公益財団法人東京都つながり創生財団と連携し、専門家による外国人相談会を実施します。

多文化共生事業では、国や民族、文化の違いにかかわらず外国人も共に生活する住民という認識を深めるため、広く市民向けに国際理解のための講座を開催します。



日本語学習



交流事業



多文化共生事業

ミッション
2

文化芸術の情報発信と提供の拠点

人々が集い、つながる文化会館づくりを拠点に、地域の文化芸術や生涯学習等に関する情報を積極的に収集・発信し、調布のまちの魅力を広くPRします。

ビジョン
2

関係づくりの拠点となる文化施設

対面によるコミュニケーション、広報紙等の紙媒体、ホームページ、SNSなど多様な手段を活用し、地域の文化芸術や生涯学習等に関する情報発信を多角的に行うことで、人と人がつながる、関係づくりの拠点となる文化施設を目指します。

広報・宣伝活動

共催・独自事業

広報活動では、令和3年度にリニューアルした財団ホームページについて、課題抽出と改善を進め、利便性の向上を図ります。また、SNSの情報発信をこまめに行うことで、ホームページへの誘導を円滑化します。広報活動は全体を通じて、誰もが必要な情報を受け取ることができるよう、内容の分かりやすさに比重を置き、やさしい日本語やカラーバリアフリーの考え方を取り入れた紙面作成を行います。また引き続き、市内学校等の施設見学の受入れを積極的に行います。

宣伝活動では、財団報ぱれっとの市外への新聞折込と並行し、ウェブメディア（SNS）での広告出稿を取り入れることで、ターゲットを明確化した宣伝を行います。

会員制度「ちょうふアートプラス」については、市内の無料会員を含めた会員数の増加を目指すとともに、満足度向上のため制度の充実と周知を継続して行います。また、市外の有料会員については、継続率の向上を目指すことで収支面での安定化を図っていきます。

調布の文化芸術に関する情報プラットフォーム形成に向けて、文化施設、文化団体、大学等の教育機関と連携しながら調査検討を進めます。また、調布フィルムコミッションの推進のため、映画、ドラマなどの撮影支援を積極的に行います。



財団ホームページ



財団報ぱれっと

がら、一緒にダンスを楽しみ、創造する「東京のはら表現部 i n 調布」を実施します。

事業概要

12回目を迎える調布国際音楽祭では、「MUSIC WITHOUT BORDERS」をテーマに掲げ、文化や言語の違いを超えて音楽を楽しむことができるよう、様々な取組を行います。外国人の参加機会を確保するため、多言語に対応した広報を展開し、フェスティバル・オーケストラへの海外学生の受入れを行います。また、調布駅周辺での屋外での吹奏楽演奏や、植物園や映画スタジオを活用した取組など、調布市ならではの会場でのプログラムを拡充し、市民の愛着を深めます。

その他の音楽事業では、ホール空間では有料公演を主軸とする一方で、誰もが文化芸術に親しめる機会を提供するため、市全域からアクセスのよいグリーンホール、文化会館たづくりを中心に無料の鑑賞事業を実施します。また、小学校低学年までの子ども向けの公演を年齢層に合わせて複数回実施するほか、小学校へのアウトリーチにも取り組みます。

演劇舞踊事業では、将来的な障害者による実演に向けて障害者対象の鑑賞事業やワークショップを実施します。古典事業では、能・狂言、落語、邦楽を取り上げ、小学校等へのアウトリーチや体験ワークショップなどのアクティビティとホール公演を連動して実施します。

次世代を担う実演家の人材育成では、音楽アウトリーチや「小さな小さな音楽会」の運営にあたり、大学や専門家と連携した取組を行います。

共生社会の充実に向けた事業として、特別支援学校や福祉施設等との連携を推進し、音楽、ダンス、演劇などの体験を通じて、地域の子どもたちが文化芸術に触れ、社会参加できる機会を創出します。



調布国際音楽祭



(c)_K._Miura

字幕版！絵ばなし寄席（手話付き）



小さな小さな音楽会



デル育成認定プログラム



演劇コンクール



新進演奏家コンサート

<p>ミッション 1</p>	<p>地域全体に向けた舞台芸術活動の展開 小劇場であるせんがわ劇場の特色を生かし、新たな舞台芸術の制作に取り組みながら、地域全体を劇場のステージと捉え、誰もが舞台芸術活動に参加できる機会をつくります。</p>
<p>ミッション 2</p>	<p>次世代を担う実演家の育成 豊かな人間性と感性を育む舞台芸術を継承し、発展させていくため、せんがわ劇場の特色を生かした様々な人材育成・普及啓発事業を展開し、次世代を担う実演家を育成します。</p>
<p>ビジョン 1</p>	<p>地域の中で息づく劇場 芸術監督による演劇制作を起点に、舞台芸術の活性化を図りながら、せんがわ劇場から輩出された人材が、学校や福祉施設をはじめ、ニーズに応じて地域全体に出向き、交流を深めることで、地域の中で息づく劇場を目指します。</p>
<p>ビジョン 2</p>	<p>持続的に発展する劇場 せんがわ劇場に固有の人材育成の枠組みを推進するとともに、普及啓発のための公演やワークショップを幅広く実施することで、舞台芸術を次世代へ継承し、持続的に発展する劇場を目指します。</p>

芸術振興事業

指定管理事業

主要な取組

●せんがわ劇場 芸術監督による制作

演劇事業の芸術性・創造性を高めるため、演出家の小笠原響氏を芸術監督に迎えます。従来より幅広い層に向けた演劇公演を制作するほか、演劇コンクールを出発点とする人材育成事業や、地域全体に向けたアウトリーチなど普及啓発事業にも創造的に関与し、次世代の実演家を育成するとともに、地域の文化芸術活動を活性化させます。

事業概要

音楽事業では、有料公演として新進演奏家のコンサートや小学校低学年までの子ども向けの公演を行うほか、小学校へのアウトリーチにも引き続き取り組みます。

演劇事業では、誰もが文化芸術に触れることができるよう、外国人や未就学児も含め、言葉の理解にかかわらず楽しめる演劇作品の創作・上演に取り組むほか、様々な世代別に表現活動を行うワークショップを実施します。

次世代を担う実演家の人材育成では、演劇コンクール出身者による「デル」の活動を充実させます。

共生社会の充実に向けた事業として、特別支援学校や福祉施設等との連携を推進し、音楽、ダンス、演劇などの体験を通じて、地域の子どもたちが文化芸術に触れ、社会参加できる機会を創出します。

3 施設共通



利用者の声を反映させた施設づくり

アンケートや窓口対応など多様な手段を通じて、利用者の声に耳を傾け、可能な限り反映させることで、誰もがアクセスでき、参加しやすい施設をつくれます。



施設の長寿命化とライフサイクルコストの縮減

少子高齢化等の社会変化により、今後ますます財政支出の縮減と平準化が求められます。適切な維持管理による施設の長寿命化と、徹底的な省エネルギー化等により、ライフサイクルコストの縮減に取り組みます。



人々が安心して集う施設

利用者の様々な意見をもとに、施設設備のバリアフリーや、障害者対応・多言語対応などアクセシビリティ向上に加え、災害時の備えを充実させることで、人々が安心して集う施設を目指します。



効率的で持続可能な施設

E S C O事業をはじめ、公民連携手法を取り入れた施設改修・維持管理を推進し、脱炭素社会を見据えた省エネルギー化に取り組むことで、効率的で持続可能な施設を目指します。

施設管理運営

指定管理事業

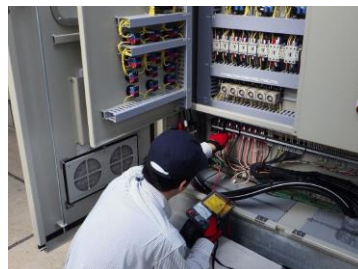
人々が自然に寄り集う施設となるよう、窓口やアンケートなど多様な手段を通じて寄せられる様々な意見をくみ取り、可能な限り利用者の声を反映させます。また、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律や調布市の計画に基づき、バリアフリーを推進し、誰もがアクセスでき、参加しやすい施設運営に取り組みます。

施設のライフサイクルコスト縮減のため、空調・照明設備の運用を絶えず検証し、省エネルギー化を推進するとともに、設備の劣化状況を踏まえ、部品交換等を適切に実施することで、建物全体の長寿命化を図ります。

災害対応については、災害時における調布市の対応への協力に関する基本協定に基づき、施設・設備を活用しながら、市と緊密に連携して、地震、風水害など様々な想定で訓練を行います。



非常用発電機



設備点検



バリアフリー推進

人材育成

豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言や市の総合計画など、基本的な施策を踏まえた事業展開をしていくため、市と緊密に連携しながら人材育成を推進します。

令和4年度から導入した目標管理型人事評価制度は、職員の意欲とやりがいの向上につながっており、引き続き組織の活性化を促進するため、適切な運用に努めます。

文化芸術に関する専門知識だけでなく、市との政策連携、市民や地域、関連分野との連携を推進できる総合的なスキルを備えたアートマネジメント人材が求められることから、職層別による出張研修やeラーニングに継続して取り組み、組織力・人材力を強化します。

業務のデジタル化

多様な働き方と効率的な事務遂行のため、業務のペーパーレス化、オンライン化を推進します。電子決裁・電子契約については、適用範囲を段階的に拡大し、安定的な運用を目指します。リモートワークは定常的に活用する一方で、対面での業務も重視し、両者のバランスを適切に取りながら推進します。